



たひよん
読ろ

スナツプ印象派

Weblog : 3

すべった！



©ヨコヤマト



Pubooブログ e-hon『ひょうたん鯰』

<http://p.booklog.jp/users/axros03>



初めて歌集をひらいた日

どうよこれ？と、

ヒネ小姓の二つ名*を持つ男に差しだされたハードカバーの新刊本。

手にとって中ほどのページを開くと、

ひどく行間のあいた縦書き文章*が見開きにわたって並んでいる。

なに？右から左へと行を追って読むが、何を書いているのか皆目。

行のひとつ一つは理解できるのに、

まるで意味が繋がらない、その時の焦りようと云えば・・・。

：

当時のベストセラー、

社会現象にまでなった歌集『サラダ記念日』（1987）だった、俵万智の。

といったことを、一昨日ふと思いだして図書館ネット*で予約、

持ち帰って歌集をひらくと、また。

なに!？すべて外国語だ、横書きだ、英語だ。翻訳本と間違えてしまった！

その日のうちに再予約したが、なるほど、平易な言葉を紡ぎ合わせているから、

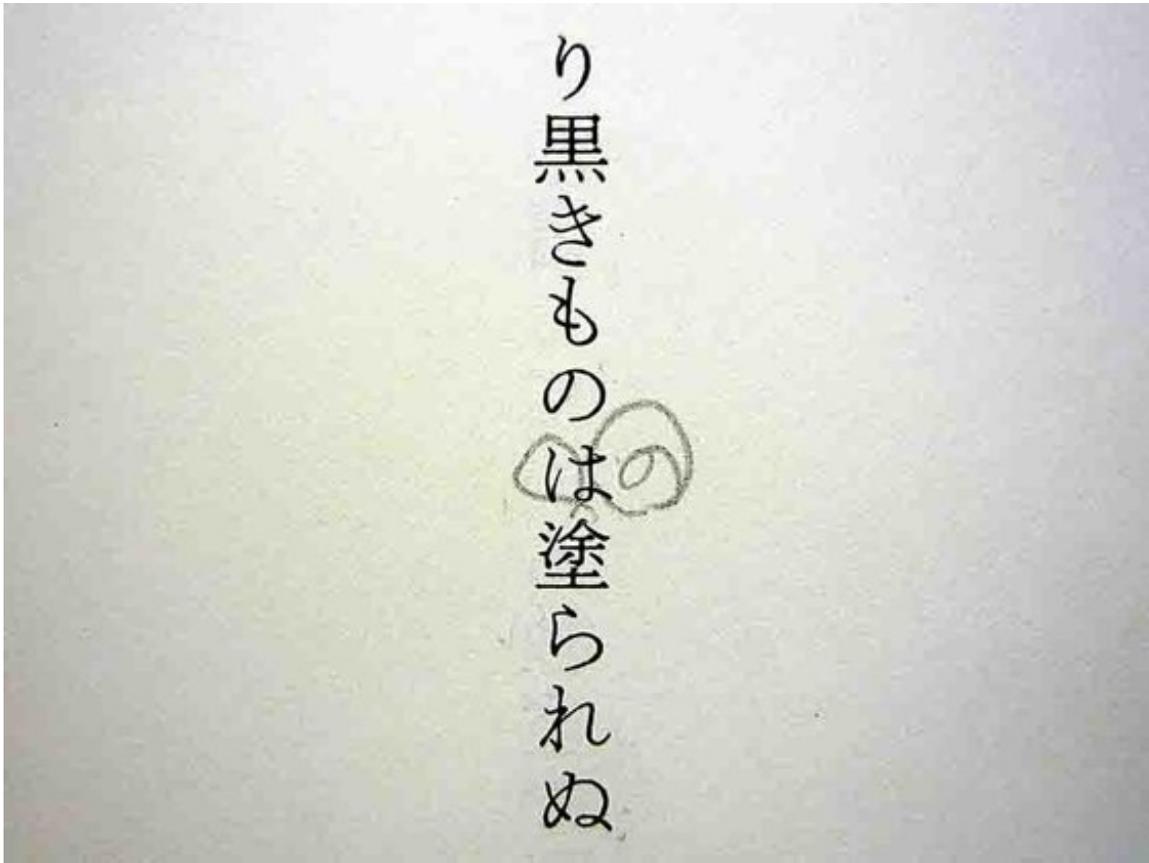
翻訳しても齟齬（そご）がなさそう。

*あだ名、ニックネーム

*ページが特定できた、既視感満々な「58～59P」、見開き6行。

*高松市中央図書館

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



なに、添削でもしているつもりか!?

一点に戻らんとする心あり墨より黒きものは塗られぬ
歌集『サラダ記念日』（俵万智 1987）

高松中央図書館蔵 *みんど【民度】地域に住む人の文化水準の程度

:

初めて歌集を開いた日 <https://blogs.yahoo.co.jp/axros03/48229706.html>

バス停、出前一丁！



バス停出前一丁！

小道具一つでシーンの構図が決まる・・・、

時代劇だとお地蔵さんとか常夜灯。これが現代劇だとバス停に、

こんなところにバスなんか来ないでしょ！という場所にも演出に必要とあれば、

唐突さをひた隠して平然と登場させる、でスムーズに物語が進行する。

映画人たちの知恵だよ、これって。

：

画像は、

邦画『北のカナリアたち』（2012）、『県庁おもてなし課』（2013）



原節子の『紀子（のりこ）三部作』

「幸せって楽しさの装いよ、競馬に出かける前の」

・・・これ、装いなのか、粧いなのか。

『麦秋』での原節子の台詞だから“粧い”かと瞬間、

脳内変換したが本当はどっちなんだろう。

小津安二郎監督『晩春』（1949）、『麦秋』（1951）、

『東京物語』（1953）ともに原節子の役名は“紀子”（のりこ）、

紀子三部作とも言われている。

これで、期せずしてすべてを観賞したことになる。

原節子は1929（昭和9）年生まれ、43歳で引退、

2015（平成27年）、95歳で逝去した。

その昔、ハリウッド映画を観慣れていた頃は、

小津監督が得意にしていた“反復カットと台詞”に辟易していたが、

何本も観ていると慣れるものだ。

会話のテンポのゆったりとした緩さが、映画に集中させてくれる。

また麻雀全盛だった当時の世相も反映して、

『晩春』ではこんな反復台詞も。

その都度カット代わりするのはもちろんのことだが、

「やっぱり、嶺上開花（りんしゃんかいほう）は

自摸（つも）が付かないんですよ。ですから8本16本で、

ボクのトップだったんですよ」

「あ、そうかね」「そうだったんですよ」「そうか、そうかね」

といった具合に。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



【記憶の話_壱】

近江屋

その昔、通天閣そばの串カツ屋でバイトしていたとき、

手すき時間に『串にさしたちっこい肉を叩いて平たく延ばす』という

作業をさせられていた。これがよく延びるのだ、面積で云うとほぼ3倍。

しかし何を用いて延ばしていたのか、記憶にない、

はて何だったか、スリコギだったか？

そういえばその近江出身の爺さん店主、

毎晩、手提げ金庫を小脇に抱えて前傾姿勢で帰宅していた。

その後ろ姿から“お金の本質”を見たようで・・・！

この店、Yahoo! 画像を眺めていたらまだあったよ。

ちなみに拙（せつ）、

この所為ばかりではないが串カツはそれ程好きじゃない。

：

煮麺

行きつけの居酒屋でお酒のめに

「煮麺（にゅうめん）できますか？」と大将に訊ねた。

すると「あいよ、しばらくお待ちを」と言い残して勝手口から出ていった。

しばらくして帰ってきて拵え始めた。

すぐ隣のA E O N系スーパーへ『素麺』（島の光）と

『茄子』を買いに行っていたことを、かなりあとで知った。

煮麺に茄子は当地讃岐の定番だ。お汁（つゆ）はもちろん、

馴染みの『ダシ入り味噌』（マルコメ）を溶き入れていた。

家でいつも食べていだから旨かったが、

ちなみに素麺だと『市販のめんつゆ』と決まっていた。

料理が達者なのかどうか、さっぱり分からん大将だった。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



醜い連鎖

その昔、私が会社員だった頃のセクションを兼任していた社長、

創業オーナーから引き継いだ二代目。

長身で、千鳥格子柄のブレザーが似合う人だった。

米俳優に喩えるとゲーリー・クーパー、双眸涼しく上品な佇まいともの言い、

背筋がスッと伸びていて清々（すがすが）しい覇気が感じられたものだ。

難をいえば、生真面目すぎる性格を私は少し苦手感じていた、

それに関してはおきおきの恥ずべきエピソードがあるが、またの機会に。

さてある年の暮れ恒例の、会社のT市地区の忘年会がお開きになって、

送迎のマイクロバスに向かう社員や関係の人たち。

2～3人で連れだって先ほどの宴会話の続きをしていたり、

二次会の待ち合わせを確認しあったりと、

それぞれが宴会の昂揚を引き連れて賑やかに歩いてきていた。

社長一人、

それらの群れからひと呼吸の距離を置いていたが、さもありがたんだ。

その社長を名指して、

「おいおい」「転けんと、はよ来いや」「大丈夫かじいさん」などと、

マイクロバスの車内から、ゲスな罵（ののし）りを浴びせる二人がいた。

次期社長と目されていた小柄で色黒な専務と、

追従して囃（はや）す部長だった。

いずれも一事が万事、上品とは言い難い印象しか残っていない。

：
信じがたい悪口雑言の記憶もすぐに薄れて、かなりの歳月が経ったころのこと。

すでに私はフリーランスとして事務所を構え、奮闘しつつも次第に疲弊していた。

野卑だが賢くそつない、狡猾なその人が大方の予想通り社長の椅子に就いた。

それから十数年、外部から招聘した人や直属が社長になったりして、

代が都合六度替わったある日のこと。

入社時から懇意にしている近々の現役社長がやってきて

「前の（二代目の）社長のあの人が、とうに亡くなって葬式も出しとるんやて」

「ええーっ！」

予想もしない突然の弔事には、ただ驚きの言葉しか出ないものだ。

「うちから誰も行ってないし、連絡もなかったんや」

「・・・（そうやろな）」

「それで香典もって自宅へ弔問に行ったんやけどな」と、歯切れが良くない。

で突然あの夜の、忘年会を終えた帰りのマイクロバス車内での、

下卑た二人の陰湿な苛めに似た罵りがフラッシュバックした。

おそらく社長を辞してから一度も会社を訪れていないだろう、

歓迎されないことは明白だろうし、また会社に彼の居場所がある訳もなく、

などと。

その後、醜い連鎖が何代かに亘って続いたのだと想像しているが、

いまは昔の話、その時代を知る人もほとんどおらずで・・・。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。

とらやのようかん



とらやのようかん

「トラヤ、ゲット〜♪」

「（嫁いだ娘家族の母屋に）いつもの家庭用カレンダー*持ってったら、

虎屋の羊羹（ようかん）くれたわで」と、妻（さい）ご帰艦。

お家では昨日からなんでか、虎屋の話に沸いていて・・・偶然の重なりか、

それとも年の瀬だからお歳暮のお裾分けだったのかしらん。

*妻（さい）が友人から貰った家庭用カレンダーを3〜4点、タマも大きく、予定の書き込みができる大判タイプ。バブル崩壊からこっち、年々、広告カレンダーが配られなくなって、文具店などで買うモノになりつつあるようだが、なかなかそこまでは。

:

虎屋の羊羹というと、ちょっとした悔いを遺している思い出がある。

父生前の、20年ちょっと昔の話。

掛かり付けの町医者で、年に一度のレントゲンを撮って胃ガンが見つかった。

すぐ系列の総合病院を紹介されて、胃カメラ、CTなどの細密検査。

胃ガンは進行、すでに方々へ転移していた。余談だが当時は告知をしなかった。

その理由が「自殺する人もいますから」と、“なぜだか”釈然としないモノ、

今から考えると、

人間の尊厳をないがしろにした医師の逃げ口上、もしくは・・・。

といった経緯があって、数日後もしくは10数日後には12時間におよぶ手術。

術後「これは手術をしなかった方が良かったという例かも知れませんね」と、

回りくどい言い回しをしたこの外科医は、なにしろ団塊世代、

在学中ついで見かけたことのなかった私の学年の同窓生だった、

という余談まで付いていた。

胃ガンは当時流行りの病（やまい）、胃ガンノイローゼという風潮まであった。

越路吹雪もサザエさんの長谷川町子も手塚治虫も胃ガンで亡くなっている。

それはともかく、それからしばらく普通に生活をしていた時のこと。

父母と妻（さい）の四人で団らんしているときに、

父が「虎屋の羊羹が食べたいゾ」、と言う。

「なんやトラヤって、それ三越に売っているのか、

そうか、こんど買ってくるわ」と言ったままになっていた。

その時まで、私は虎屋の羊羹なるものを食べたことがなかったから、

頓着（≡気にかける）しようにも姿カタチがイメージされない、

でその内に・・・早い話が、忘れてしまったということだ。

あの時、買っていれば、といった悔いと、

食べられていたのにといった食い意地が、ない交ぜになってよみがえってくる。

妻（さい）に言わせると1～2年前に一度、

虎屋の小さいのをひとつち（！）食べたことがあるらしいが、記憶にない。

おそらくこれが生涯最初で最後だった筈だから、

貰った虎屋の羊羹、味を噛みしめながらいただかないと・・・。

：
閑話休題。

ある家族にお歳暮が届いた。

一人留守番をしていた小学生の次女が受けとった。

パッケージから虎屋の羊羹（ようかん）だとすぐ分かった。

しばらくしておばあちゃんが帰ってきたので渡すと、あらまあ♪と笑顔に。

いただき物の甘味の類（たぐい）は、

お仏壇にあげたあとみんなでお三時にいただくのが、この家の常。

愉しみにしていたが、翌日も次の日も出てこない、話にもあがらない、

もしかするとワタシが留守の間にみんなで食べてしまっていたのでは。

心配になった次女は長女に訊ねた。いやそんなものは出されていないわ、と。

とするともしかして、おばあちゃんが一人で食べちゃったの？

時として羊羹（ようかん）は疑心暗鬼のツメを搔きたてる。

モノがトラ屋だけに。 [#ツイノベ](#)

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。

昭和8年（1933）の高松市街図



昭和8年（1933）の高松市街図

図書館の企画展で、昭和8年の高松市内住宅図が拡大して貼り出されていた。

ここに引っ越してきたのがほぼ40年前、

その時代、現在のわが家の敷地には何が建っていたのか、ご近所は？

などと、『二番丁小学校』を目印に探したが分からなかった。

もう一遍行って手繰（たぐ）ってみんと・・・とりあえずサイトへ行くと。

二番丁小学校（新番丁）のポリシーがいい、シンプルにして愛がある！

児童像

考える子

やさしい子

元気な子

：

できょう、予約DVDが用意出来ています、と図書館からメール。

午後になって受け取りに行くと、

拡大市街図の前で一人おばさんが覗きこんでいる、

その横で同じく覗きこもうとした私に

「どこでしたかしらね、『姥ヶ池』（ばあがいけ）」

「さあ、墓地の下一帯の盆地みたいな土地やけど、

昭和8年はまだ埋め立てしてなかったでしょ？」と、私も一緒に探した。

栗林公園から手繰って行って、

それらしき場所に池が一つ、大きな穴を開けているのを発見、

周囲（西手）は田んぼばかりだ。「多分ここでしょうね」と私。

「当時、高校（明善）前駅とかがあって、電車が走っていたんですよ、

記憶にありますね、コトデンでなく」と件（くだん）のおばさん。

しかしこの地図、探し当てづらいと思ったら“南が上”じゃないか。

ちょっと身体を捻（ひね）って、頭の中で“海を上”に置いて考えるよな。

：

ネットに地図データがアップされていた、拡大もOKだ！

香川県立図書館デジタルライブラリー【高松住宅明細地図】昭和8年

<http://kagawa.digilib.jp/sonota/ezu/detail/DE00610.html>

歴史年表

：

昭和6年 満州事変

昭和7年 上海事変、満州国成立、五・一五事件

昭和8年 国際連盟脱退



向田邦子の『思い出トランプ』

昭和55年（1980）度直木賞受賞、

NHKドラマ『思い出トランプ』（向田邦子原作 1980）。

「一人の女の中に違う女が何人もいるからね、

でもその一人も分からないよ、自分のことだって」（田中裕子：小林薫の妻）

一人の女の中に棲む何人もの女をトランプの顔に例えて語る。

茫漠とした不安を「私はどうしてここにいるんだろう・・・。

何かの抽選に当たってここに座っている、といった家族」と、

田中にモノローグさせる。

向田邦子は生涯独身だったが、こんな卓越したセックス表現が、

曰く「女はあの時、瞼の裏に赤い火花がでるって本当かな、

虹がでるっていう」（岸部一徳：医師）

「火花や虹が（を）見たことないけど、

入場券みたいになったことはあるわ。むかしの赤い線の入ったやつ」

「あの時、目を瞑っていると暗いなかで、躰に赤いスジが走ることがあるの」

「幅5センチの赤いスジが、腿（もも）の内側の真ん中の辺りから、

両脚の足首に向かってゆっくり走っていくの・・・、

あの赤いスジが」（田中裕子）

淡々と喋るセリフながら凄い表現じゃないかと、ビデオを巻き戻してメモ。

さらに特筆は、小林薫に囲われる水商売の女を演じている

洞口依子（どうぐちよりこ）、ワタシには初顔だったが斬新な演技。

：

余談だが、原作の向田邦子は51歳で飛行機事故に遭って夭折、

かたや母せいは100歳で大往生。

母にしてみれば娘と寿命を半分こしてあげられたら、と思ったかどうか。

：

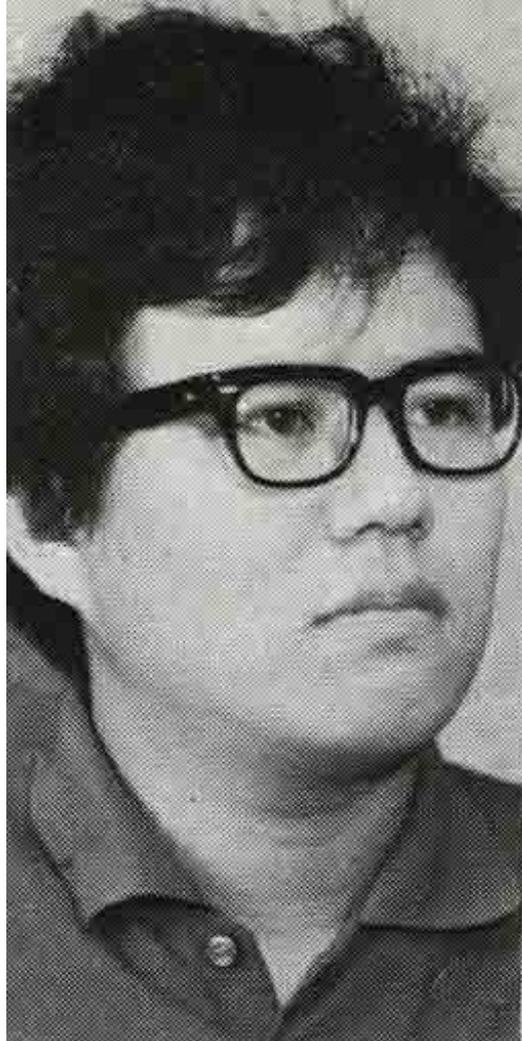
1964年東京オリンピックの年に実家を出て独立した下りは、

朗読エッセイにも収録されていた。その辺りから、

漫画『サザエさん』の長谷川町子と同世代のように思えたが、

調べてみると九つ年下だった。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



てつや君

漫画『あしたのジョー』のカバー裏、

作者プロフィール*を見て「おおっ！」・・・その昔、

私のあだ名が瞬間的に『てつや君』だったことを思いださせた。

こんなモジャ頭ではなかったが。

*正確には、昭和53年（1978）に発行されたコミック（KC）誌『あしたのジョー：1』のカバー中折れ。漫画家ちばてつやの横には原作者の高森朝雄（梶原一騎）が悪人顔で紹介されている。



コメがない

「ちょっと遅れとるんや、予約時間に。いま来たんや」

突然、爺さんのダミ声が耳に入ってきて、コミックを読む手を止めた。

図書館2階フロアに入ってすぐのコミックコーナー*には、

ふた抱えはありそうな円柱を背に設えられた、

休憩と読書を兼ねた丸いソファが2つ。

その内の一つに入り口ドアを背に座っていた。ちなみにこのソファ、

柔らかく適度な反撥があって座り心地がよい、円柱も背中に優しい。

ちびっ子から老人までさまざまな人たちが腰を下ろして、

コミックや貸出受け付けを済ませた雑誌などを読んでいるが、

女子高生やOL風の女性が座っているのを見たことがない。

その爺さんの無遠慮なもの言いは、

誰かと話している、ケータイでも掛けているのかといった声。

座った角度から姿カタチは見えなかったが、

ひどく強烈なキャラの爺さんがいるもんだな！と、驚いていた。

「10分ぐらいかの、遅れたんは。まだいけるやろ」

などと喋り声が移動して、突きあたりの受付へ。

その受付の女性館員（お姉さん）に、トンでもないことを言い始めた。

「コメがひとつもないんや、水でもええんやけどな、コメがないんや」

ケータイを掛けているのでなく、2階の自動ドアから入るなり、

受付のお姉さんに向けてひときわ大きい声で話しかけていたのだった。

声が大きいのはおそらく地声、お姉さんに近づいてもトーンが変わらない。

「なんか食うもんないか、ないか。ないんなら、しゃあないな」

「ほんまにコメがないんや、ひとつ粒（つぶ）も。どーしよか、なあ」

その間お姉さんは、いつものことだからと、困った愛想笑いをしながら

「ええ、まあ、そう、はい」などと適当な受け答えをしているようだった。

何のリアクションも期待できそうにないのでそれ以上喋ることもなく、

「そや、映画予約しとったんや」と、

視聴予約をしているAVコーナーへ歩いて行ったようだ。

爺さんの声と気配が、私の周囲からフェードアウトして静かになった。

:

でまたある日、AV書架でビデオの背表紙を眼で追っていると、

視聴ブース*から素っ頓狂な声。

「それ犯人や！お、おいっ、血い～みるで！」

頭の両サイドをすっぽりと覆うほど大きいヘッドホン*をかけた、

かなり年配の小父さんが映画を観ながら興奮している。

画面を横目でチラ見すると、

刑事モノかサスペンスといった古い日本映画（VHS）が流されていた。

しかしまあ年々、70歳をとうに過ぎたようなお年寄りが増えているなあ。

なかには仲良くDVD映画や音楽CDを借りる老夫婦もいて、微笑ましくもあり。

:

*高松市中央図書館（写真）

*コミックコーナー

簡易書棚がいくつかあって、何冊か歯抜けになった全巻コミックや単行漫画本などがストックされている。やはり別格は手塚治虫、書棚一つを占めている。

*視聴ブース

DVDはもとより、VHSテープ、レーザーディスクまで観賞できる。モニターはCRTタイプ（ブラウン管）、椅子はパイプ製。

*ヘッドホン

やたら大きいヘッドホン。耳にタイトで音が漏れない。オーディオ専用というか、海外にある射撃場の耳栓のようだ。

Based on a True Story

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。

Bow-wowのこと



Bow-wowのこと

数年前のこと。ブログに犬の鳴き声を書こうと、『バウ』と打ち込んだ。

ATOK（エイトク）が、なんの躊躇（ためら）いもなく『Bough』と変換した。

なるほど、英語だと『ばう（っふ）』みたいなスペルになるのか、

Daughterというのものもあるからなあ。

疑いもなく、バウ=Bough～♪♫と単語登録して、以来ずっと使っていた。

ところがある日、見かねた、唯一私が往き来しているブロガーの女性から

「違ってきますよ、それだと『木の枝』の意味になりますよ」と指摘された。

え、また勘違いして使っていたのか、確認しもせずに、と。

兎に角、こういった思い込みは私にはしょっちゅうあることで、よく恥を搔く。

近ごろはネット辞書やYahoo!頼りだが、逐一確かめることにしている。

Firefoxでブログを書きながら、Safariでもう一つのウィンドウを開いて

英単語や漢字変換の確認といった具合に。

特に漢字は難度が高い。渡る、亘る、渉るなどの『わたる』を一例に、

そのほか多岐にわたって*変換に躊躇（ちゅうちょ）する。

・・・はて、この『わたって』*は、どうなん？そもそもこの使い方で合ってる？

といった具合に。

Boughは木の枝、Boughtだとbuyの過去形だと学習した結果、

犬の鳴き声は『Bow』もしくは『Bow-wow』だということが分かった。

というか、この犬の鳴き声はまた、ミャウ～♪♪といった猫のそれと同じく、

オノマトペ（擬音）でもあるのだ。

とすると人によってはBow～♪♪ではなく、

Wan-wan～♪♪と聞こえているのかも、なあそのワンちゃんよ。

・・・Bow-wow～U^E^U

:

こんな人がありました▼▼▼

日本では「ワンワン」だけど？世界で異なる犬の鳴き声の表現

<https://wanchan.jp/osusume/detail/6158>

Photoは上記のサイトから転載しています。不可の場合はご一報ください。

小説の方も15万部販売（よく知らない）と、かなり売れているようだ。

レビューはというと★★★★（星3.2〜）と、ちょっと微妙。（五ツ星フルマーク）

：

近ごろマイタイムライン（Twitter）が、

映画と小説版『嘘を愛する女』の話題で賑やか、

小説版を担当した「岡部えつ」女史をフォローしているので、

続々と彼女からの関連タグ付きリツイートが発信されてくる。

そのタグの一つ、「#嘘愛」をひょいと手繰ってみるとこんな記事に飛んだ。

PDFを拡大して読んで吃驚（びっくり）！まるで松本清張の推理小説。

・・・で、記事の続報というか後日談、あるの、ないの!?

：

[朝日新聞公式Instagram▼](#)

「夫はだれだった」。

1991年11月4日の朝日新聞朝刊社会面（東京本社版）。

この見出しの記事から着想を得て、映画「嘘（うそ）を愛する女」が生まれた。

：

考えることは同じだな。5ちゃん（2007年）にこんなスレッドが立っていた。

1991年11月4日の朝日新聞（三面記事）に『私の夫は誰だった?』という記事が・・・その後10日ほど3面記事を調べたが、続報はありませんでした。どなたかこの事件の続報をご存じないでしょうか？

1 : ibm_111 : 2007/08/21(火) 18:59:30 ID:E1YqZMhp

当時私は小学生だったと思うのだが、

朝日朝刊の三面記事を読んでいると、妙な記事があった。

「私の夫は誰？」

ある男が死んだ。

奥さんが、男の勤め先と聞いていたところに行ってみると、
そんな人はいないという返事。調べると、名前・職業全部ウソ。

その後、10日ほど3面記事を調べたが
続報はありませんでした。

そこで、検索してみると出てきますね。

「1991年11月4日の朝日新聞に「私の夫は誰だった？」という記事が記載された。」

どなたかこの事件の続報をご存じないでしょうか？

2 : 名無しさん@お腹いっぱい。 : 2007/08/21(火) 22:10:56 ID:???

興味あります

知ってる人いませんかー？

9 : 名無しさん@お腹いっぱい。 : 2007/08/22(水) 07:46:30 ID:???

完全失踪マニュアルで本で紹介されてた記事かな
近くの図書館にあった。探してみる。

11 : ibm_111 : 2007/08/24(金) 22:38:44 ID:/AatUrOe

借りてきた。

それっぽいやつないんだけど。

冷静に考えて、この事件は失踪じゃないし。

まあ、この本の内容が面白かったから、いいんだけど。

12 : ibm_111 : 2007/08/28(火) 07:38:52 ID:???

見つけた。

男は京都生まれの、浜松医科大胸部外科助教授と名乗っていた。

世田谷区で同棲。

その後の調査でもまったく素性は分かっていない。

全身に末期がんが転移していてもなお、同棲相手に自分の身分を隠し続けたのだから、
すごい精神力の持ち主だ、と褒められてるw

まあ、結局、この男は謎のまま死んだ、ということですね。

14 : 名無しさん@お腹いっぱい。 : 2007/11/20(火) 16:33:42 ID:???

ああ、浜松医大事件ね。

ワイドショーでも取り上げられてたよ。

いま考えると、医者を詐称するいかさま男にホイホイと引っかかってしまった妻の脇が甘いというか。

:

映画【嘘を愛する女】・・・ネットには「原作との違いについて徹底検証！」

「あらすじ・ネタバレも！」といった記事が数多くアップされている。

映画館には行かないが、DVDがリリースされたら観るつもり。

それまでそういった類（たぐい）のモノは決して読まない

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



迷子になった黒木華

...ここはどこなの？ここはどこですか？

自分が今、どこにいるか分からないんですけど、

どうしたらいいですか？

：

黒木華の迷子感が半端なくリアル、身につまされる。

彼女きっと、方向感覚の欠如した女性、もしくは、

帰巢本能がないといった性格設定なのだ。

邦画『リップヴァンウィンクルの花嫁』（2016）

予告篇2 <https://www.youtube.com/watch?v=vqy4J9gfBcY>

：

迷子になる人は、地図を見ない、地図が読めない。

インプットされているのは『出発点』と『目的地』と『一本の道すじ』だけ。

ちょっと脇道に這入り込むと、途端に右も左も分からなくなる。

：

某短編小説の抜粋

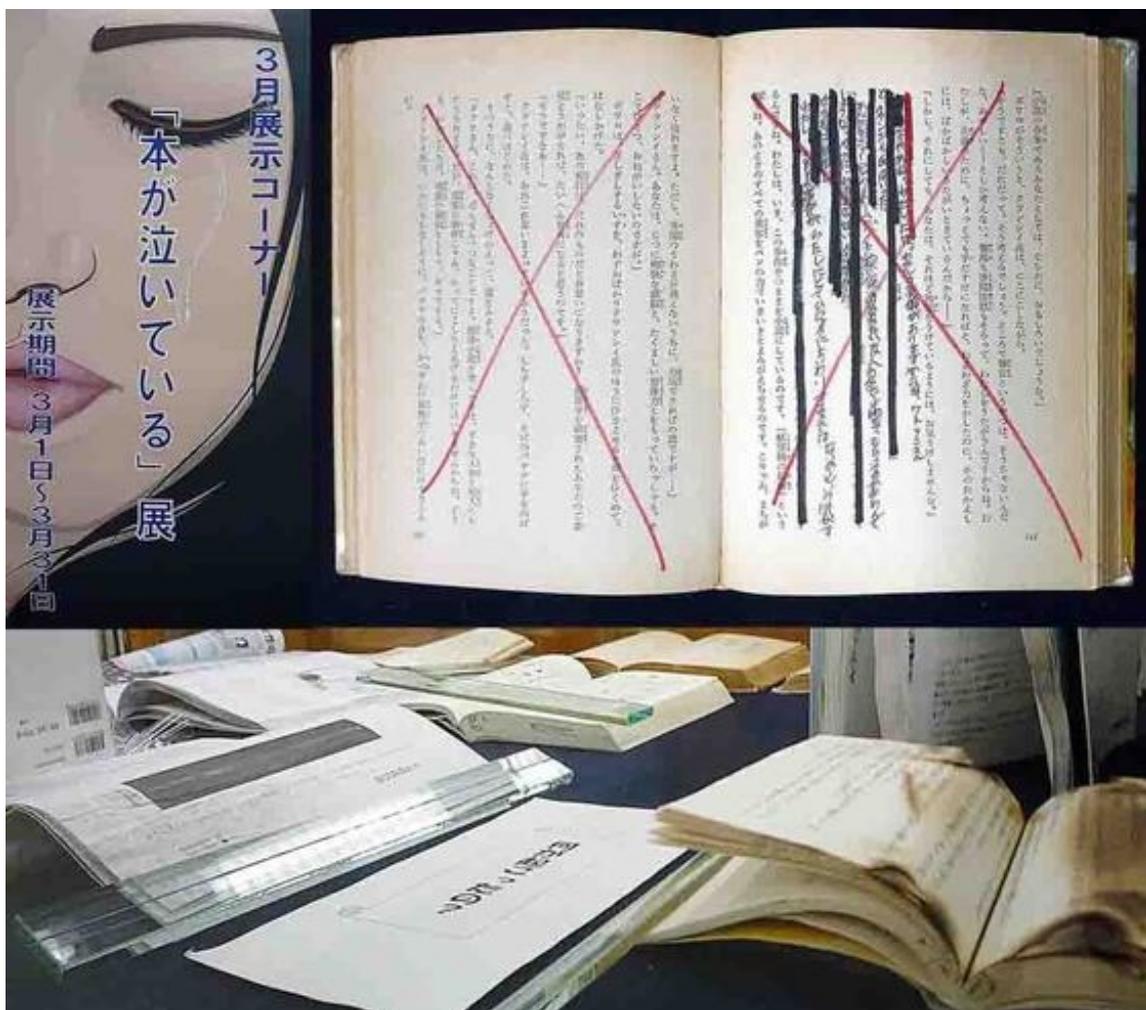
彼らは地図を見ない。あるいは見ても、理解できていない。そして運良く地図が理解できても歩きだしたが最後、自分がどこを背にしているか失念する。

東西南北がわからないのは当たり前。さらに駅や幹線道路といった目印を把握しないのも当たり前。彼らは目的地と自分のいる地点のことしか考えないから、一本でも道がそれたら迷ってしまう。

ではなぜそんな状態で家を出ることができるのか。私だったら行き先の地図を眺め、目的地の周囲までをおおよそ把握してからでないとは出かけられないものだが、彼らはそんな状態に一切臆することなく外出する。そして迷いながら私の倍以上の時間をかけて目的地に到達するのだ、まったくもって非合理的かつ非論理的である。

しかし道に迷う人々を観察していると、ある共通項が見えてきた。それは「道に迷う者は好意を抱かれやすい」ということだ。

本が泣いている



本が泣いている

全国一円に、春イチバンの生あたたかい風が吹きすさぶなか、

借りていた本を返しにやってきた図書館では、

『本たちが泣いているッ！』といった恒例の企画展が始まっていた。

二つの大きなガラス展示箱には、

千切る、書く、消す、焙（あぶ）る、漬ける、晒（さら）すなど、

なにこれ!?!と、

本たちが受けた残虐非道な受難の数々が、所狭しと並べられている。

なかでも特筆は、犯人像もプロファイリングし難い、

校正マン（もしくは作家）を気取ったお莫迦な落書き、

ご丁寧に「私ならこう表現する」*と、下手くそな文字で添削された本。

方や、鉛筆でいたずらされた落書き本には、

「1ページずつ確認してケシゴムで消します」とのメモが添えられていたが、

鉛筆でなくサインペンだと、どういうことに!?

・・・というかそういった作業を黙々となしている、

図書館員のお姉さんの苛立つ胸中を慮（おもんばか）ると、

帰途、ちょっと気分が重くなったぞ。

* 右上の蔵書の落書きは、校正、校閲、添削でなく推敲擬（もど）きか。読みづらいが、アガサ・クリスティの『名探偵ポワロ』（雲をつかむ死）の数行を、アーサー・コナン・ドイルの『シャーロック・ホームズ』に書き換えるという落書きのようだ、これは。ワトソンとかシャーロックなどの文字がかろうじて読める。

:

* サンデー毎日に、『校閲至極』という連載コラムがある。輪転機をまわす前の切羽詰まった時間内に、言葉遣いを奮闘チェックする様子が綴られている。・・・と書いたものの、校閲と校正、何がどう違うのか分かっていない。

:

高松中央図書館 2018.3

〰お酒の話はあのねのね～



〰お酒の話はあのねのね～

:

焼酎

甲乙つけがたい工業用（メチール）アルコール、飲むと目が散る！

・・・だから当然飲む人はいない。

そんな話は置いといて、果実酒用の焼酎（ホワイトリカー）が『甲種』、

麦とか芋焼酎と呼ばれるものが『乙種』。

その昔、ボトルデザインと広告で売れた「純」を買いに行ったら、

店番の小母ちゃんに「中身同じだから、こっちがダンゼン安いわよ」と、

でかいホワイトリカー瓶を勧められた。

:

合成酒

昭和11年（1922）の米騒動を受けて作られた酒に『合成酒』がある。

今でも酒屋さんで売っていると思うが、

米を使用せずアルコールと水を原材料にしたもの。

一番の特徴は、

熱燗にすると臭い（らしい）ので、もっぱら冷やで飲むひとが多いこと。

かくいうワタシも“冷や”でしか飲んだことがない。

ちなみにこの酒、科学者の鈴木さんが開発した。

：

日本酒

大正や昭和初期には、豚カツ（洋食）で熱燗が当たり前だったそう。

程よい熱さの日本酒が肉料理の油脂を流してくれる、というから、

これはこれで理に適っている。まだ洋酒が一般的でなかった時代でもあった。

森繁久弥主演の映画なんかで、洋食屋で熱燗といったシーンがよく観られる。

：

紹興酒

紹興酒は、紹興地方で醸造した老酒（らおちゅう）のこと。

いわゆる一般的な老酒と同じだ、と中華料理店で教わった。

日本酒に比して濃いコクと高いAlc度数、年数表示で分かりやすい等級。

しかし一つ大きな欠点がある！

日本料理にまるで合わない、料理が酒に負けてしまう。さてどうしたものか。

Photoはネットから無断転載。不可の場合は一報を。

身の毛が弥立（よだ）つ



身の毛が弥立（よだ）つ

脱皮したヘビの抜け殻をサイフに入れておくと、お金が貯まる。

そんなことはもとより信じていないし、ゼツタイにしない！

・・・私にとってヘビは思いだしても戦りつを覚えるトラウマ。

かつ記憶の底で私を呪縛する怨敵、姿を見るだけで膚が粟立（あわだ）つ。

その抜け殻に触るなど以ての外（もってのほか）なのだ。

それは私が3～4歳時の幼いころのある事件に起因するが、さて・・・。

:

近所の子どもたちと田んぼのあぜ道を駆けまわっていて、

運悪く草むらにいたヘビを踏んづけてしまった。

あ、と声を呑んだ瞬間、下肢をヘビに咬みつかれていた！！

咄嗟に外そうとするが、一重二重に巻き付いた俊敏な細身の胴体、

（内側に湾曲した）鋭い歯もしっかりと皮膚に喰いこんで取れない。

突然の（未曾有の）アクシデントにパニックっていたその時、

ヘビと目が合ってキョロッと睨まれた！というおぞましい記憶までも。

わあ〜っどうにもならんが！と辺り四方に響き渡るように泣きわめいていると、

何ごとかと慌てて駆けつけた隣家のおっさんが、いともカンタンに外してくれた。

農家のオトナはヘビの扱いに慣れていたのであった。

なお、ヘビに咬まれた事件は遙か昔の、幼児の時の出来事だから、

記憶を維持するために細部は意識裡に脚色されているかも知れない、

特にヘビと目が合ったくだけは。

以来、畑や池の土手、原っぱなどの草むらは怖い、草むす夏場は特に。

さらに畑やあぜ道で縄の切れっ端が落ちているだけで身が竦（すく）む。

ヘビは田植えドキ、満濃池のゆる抜きなどで上流から流れて来て、

下流の（コンクリート工事をしていない）川岸に棲みつくといいことをで知った。

そういえばヘビに咬まれる前のこと。その隣家の納屋の棚に、

毒ヘビ（と思しき）が、丸ごと一匹琥珀色の液体に詰められた

ハブ酒漬け瓶があったこと、それを気味悪がりつつ眺めていたことを思いだした。

近年は動物園の、は虫類の類（たぐい）の展示棟は敬遠する、足を踏み入れない。

週刊誌や新聞、またSNSでのヘビ画像には瞬間目を背（そむ）ける。

余談だが、私のブログ（Weblog）には

内容に見合った写真やイラストを無断転載するのが常としているが、

このような場合とても困るのだ。見るだけで鶏肌（サバイボ）*立ち、

身が竦（すく）む思いがするから、ヘビ画像は載せられない。

・・・さて何をビジュアルにしようか。

方言▶鶏肌=関東（サブイボ=関西）*

:

余談▶Yahoo!知恵袋：へビの数え方

生物学では動物（昆虫、魚、鳥も）を一頭、二頭と数えるが、へビは例外で一匹、二匹、死骸は一本、二本と数える。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



花泥棒

花盗人（はなぬすびと）は罪にあらず、は室町以前の言葉だが、

この場合は花泥棒（はなどろぼう）。

：

先日から気になっていた掛けフダ。奥の鉢植えには

「これも欲しいですか。声をかけて下さい。私が切ります」のメッセージも。

ただ惜しむらくは、いずれもキレイな花だが名前を知らない。

とここヘデジカメを構えている私のことなど構いもせず、

悠然とイエネコのご帰艦。・・・おや!?代がかわったのか毛並みが黒い。

玄関先にいつもネコの塑像を何体（3～4体）が配置してあるので、

このおうちの年配のご婦人はきっとネコ好き。

ネコの塑像、けさは鉢植えに隠れてか、見えないが。

：

ふんっ、うるせえにゃあ

<https://blogs.yahoo.co.jp/axros03/48324418.html>

ふんっ、うるせえにやあ



ふんっ、うるせえにやあ

おみやあ誰だにや、怪しいんやにやあずらか!?

・・・ふんっ!

:

花泥棒

<https://blogs.yahoo.co.jp/axros03/48321908.html>



サンクチュアリ

私の鼻先30インチ（75センチ）からこっちは、私の内庭だ。

無断で這入ってはいけない。これが西欧人のいうサンクチュアリ、

肌を交わす人以外は立ち入ることができない『個人』のテリトリーだ。

どうやら、『世間』に生きる日本人にはこれがないらしい。

『個人』と『世間』

：

カメ

明治時代、日本にやってきた欧米人が犬を呼ぶとき

「カム・トゥー・ミー～♪」と言っていた。

それを聞いた日本人が「あちらでは洋犬を“カメ”と言う」と解釈した、

という話。

：

ハラショー

オイシイ!のことを、日本では『善哉』（よきかな!）、

イギリスだと『デリシャス!』、イタリアは『ブオーノ!』、

中国へ行くと『ハオチー！』（好吃）、

ロシアの場合『ハラショー！』（Хорошо）と唸（うな）る。

一部嘘だ。

：

移民の国の歌

カントリーソングはアメリカ南西部の歌。

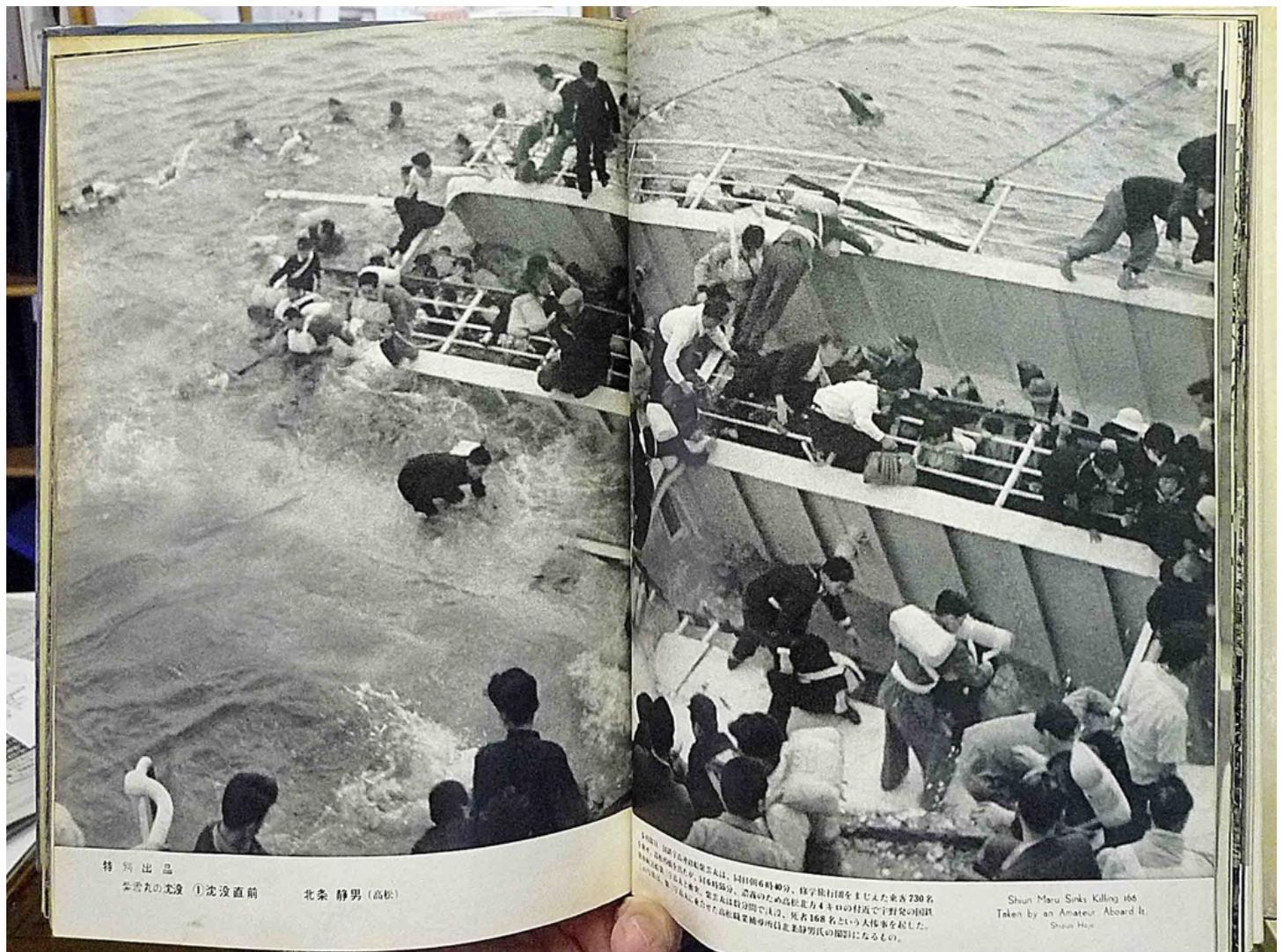
移民の国だから西欧の楽曲が混ざり合っている。

訴訟慣れした国民性ゆえか、

自分の悪行はどこかへ置いといて、ひたすら相手を責める、そうだ。

こんなに愛しているのに、どうしてキミは去っていく・・・などと。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



紫雲丸 1956

昭和31年（1956年）の報道写真集。

この年はどんな出来事があったのかと、軽い興味をもって手に取っていた。

と、いきなり見開き、海上で横転したばかりのフェリー客船、逃げ惑う乗客。

下部余白のキャプションに刷られた、

国鉄宇高連絡船『紫雲丸』の、かすれた活版文字に息をのんだ。

地元で未だ語られている、修学（小）旅行生が多数亡くなった大惨事、海難事故。

続くページには数日後の引き揚げ写真も載っていた。

：

この頃は、蒸気機関車のレールが船底にも引きこまれていて、

早朝6時過ぎ、修学旅行生は列車に乗ったまま船に乗り込んでいた。

列車の座席にいた生徒たちはその10数分後、

突然の激しい衝撃を感じることになるが、

何ごとが起きたのか、またどう対処すればいいのかわかる筈もなく・・・。

子どものころ、そういった話を大人たちから何度も聞かされた。

また近所に、この事故に遭って泳いで帰ってきたおじさんの話も聞いた。

衝突地点は高松北方4kmの海上、

女木島（鬼ヶ島）近くというから目視できるほどの距離だった。

10数年前に、高松駅まわりは再開発されて様変わりしている。

今だと女木島は、サンポート高松の海際から指呼の間に感じられるが、

普通の人が泳いで渡れる距離にはとても思えない。

泳いで帰ってきたおじさんは海軍復員兵だったのか、などと想像したものだ。

：
身近で悲惨な海難事故が起きただけに、

乗り合わせていた人たちが撮った写真が地元で多数残っているようだ。

紫雲丸船長が最期、船室（もしくは操舵室）に閉じこもるまで同行していた、

写真家（高松市）による一連の写真が地方紙に掲載されていた。

写真家の彼は『報道（写真として記録）か、

人命救助（船と運命を共にしようとする船長を説得）か』といった、

相反する命題にその後もずっと悩んだと、その記事に書かれてあった。

ちなみに写真家は、

報道カメラマンでなく写真館オーナーだったと記憶している。

：
朝日新聞 報道写真傑作集 1956

Photoは上記写真集から無断転載。不可の場合はご一報を。



水辺の記憶

雑草や小枝を巻き込みながら濁流となって激しくうねる満濃川支流、

石橋の上で中腰になってその様子を眺めていた、

数十年前の台風の翌朝の、霞（かすみ）のように遠い記憶。

：

川は、支流と呼ぶにはあまりに狭隘（きょうあい）な、

本流から田んぼ脇へと枝分かれした、溝のような用水路だった。

小さく短い花崗岩の石橋が架けられていたと思うが、

そのときのワタシは1～2歳の幼児。

それが石橋だったか、丸太の橋だったかも甚（はなは）だおぼろである。

記憶に残っていない筈だが、未だに激しい川の流れ、渦巻く濁った水面が、

そしてそれを飽かずに眺めている幼児のワタシの姿が俯瞰される。

煤けた曇りガラス越しに見るような、儚（はかな）げな心象風景だが、

雨のよく降る日やラジオの台風情報を聴いていると思います。

：

すぐ近くに広大な池（写真奥）が広がっている。

池では昔から淡水魚が契約業者によって飼育されている。

鮒（ふな）のみだが、関西方面の川魚専門の料理店に卸されていると聞いた。

鮒料理と云うと・・・鮒のてっぱい、鮒の甘露煮、鮒寿司が思い浮かぶ。

稚魚から育てられた鮒は成魚で30センチ少々大きさになり、

春先、池から田んぼに水を引き入れるときのゆる抜き（放流）で、

一網打尽に漁獲される。

その際、満濃川支流に堰（せき）をして、急ごしらえの`生け簀、にしていた。

狭い川を所せましと飛び跳ねる鮒、

たまに鯉や鯰（なまず）、雷魚、鰻（うなぎ）も混じっていて、

子どもたちや年寄り、大勢の村人たちがはしゃぎながら見物していた。

ちょっとした賑わい、年に一度のイベントのようでもあった。

20～30年前、一帯の川にコンクリート護岸と鉄製の水門を設置したとき、

満濃川支流は閉ざされた。

今見ると、幼児の記憶に反して幅わずか40センチのコンクリートの、

雨水も溜まらない役立たずな細い溝でしかない。

蓋をして暗渠（あんきょ）にする計画もなさそうだし、この先どうなるのか。

：

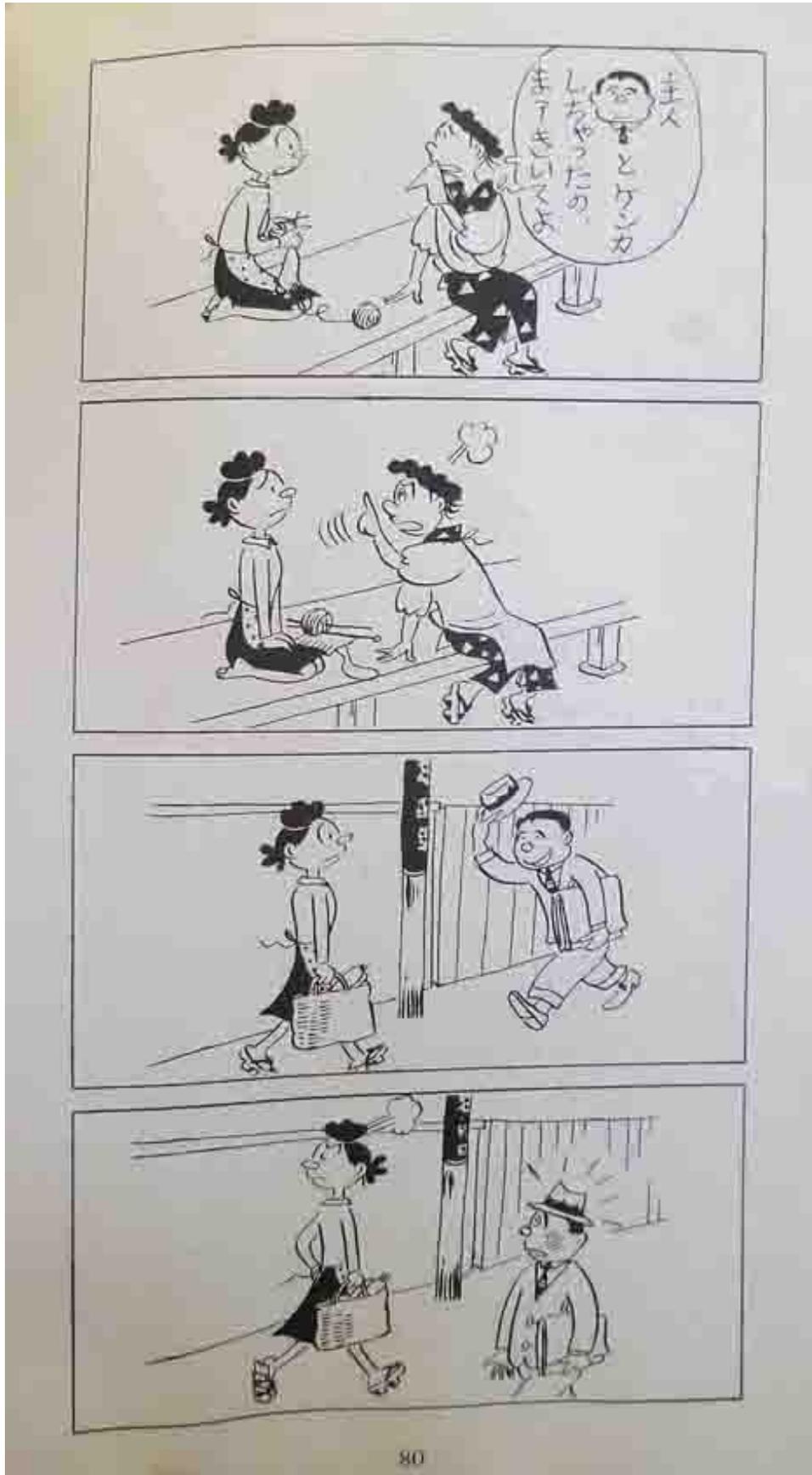
遙か昔の水辺の記憶は、ゆるゆると脳裡を揺蕩（たゆた）っている。

台風で満濃川と支流があふれた翌朝の、

メダカやモロコが凸凹道路の水たまりを泳いでいたこととかも・・・。

水辺の記憶に流れる空気は、いつまでも温かいというか温（ぬる）い。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



逐一頷（うなず）いていてはいけない。

他人の話信じやすく、また感化されやすい方は特に。

なぜなら謗り話は大方が、憂さ晴らし的な放言、もしくは罵詈雑言、

道に唾スルごときものだから。

その内容は、内輪の諍（いさか）い、個人的なもめ事、口論の挙げ句、

日頃の鬱積のはげぐちなどさまざま雑多入り乱れる。

いずれにしろ人の話は半分、右の耳から聞くのと左から聞くのとでは、

驚くほどカタチ（実像）が異なる。恣意的に話を拵（こしら）えるからである。

：

そんな経験は何度もさせられている。

人間は学習する葦（あし）だから、遅ればせながらその内気づいた。

奴（やっこ）さんの話、鵜呑みにしていいのか、どこかおかしくねえか？と。

その昔、会話の大半が謗り話で構成されているオトコがいたが・・・

ま、いいや、済んだことだ。

：

掲載の四コマ漫画じゃないが、

夫婦ゲンカの愚痴を親身になって聞いたサザエさん、

その帰り道であった喧嘩相手のダンナさんに怒りの態度。

これでしばらく、ご近所の`人間関係、が一つ壊れたままになる。

修復できるのはいつのことか。・・・四コマ漫画は続きを描かない、悪しからず。

漫画『サザエさん』（長谷川町子）には人生の真理がある。

といった著名人がいた、誰だったかは忘れたが、つとに知られた話だ。



「顔はブスだけど」と、大家さん*3の話は続く。

：

菊池寛は讃岐の人（よく知らないが多分高松生まれ）、

出身小学校（少子化による統廃合で近年廃校になった）が近くにある。

どこかに銅像が建っている筈だが見あげたことはない。

その昔、教科書に短編が幾つか載っていて、授業で読んだ。

いずれの短編も、起承転結とコンセプトが明快な作品だった。

：

外見を論（あげつら）うと、菊池寛は醜男（ぶおとこ）である。

10年近く前、

西田敏行が菊池寛を演じた映画、『丘を越えて』（2008）を観たが、

スケベで金満な感じがよく似合っていた。主演は池脇千鶴だった。

：

直木三十五*1にたかられていたとか、

賭けマージャン好きだったのは有名な話で、警察に賭博現行犯で逮捕されて、

新聞紙面（当時の記録が残っている）を騒がしたこともあった。

文藝春秋社（大正12年）を興したことは、出版界の歴史にのこる功績。

ここが発行する、`文春砲、で名を馳せた週刊文春は、

菊池寛のDNAを受け継いでいるのか、ちょっと気になるところ。

blogに掲出した一コマはライバル誌の週刊新潮連載。

漫才コンビの相方が描いた漫画で、手塚治虫文化賞（短編賞）を貰っている。

新刊したばかりの単行本も人気が高く、

先日出かけたTSUTAYA書店では売上げ2位*2にランクされていた。

：

漫画『大家さんと僕』（矢部太郎作画 手塚治虫賞）

*1 直木三十五／1923年（大正12年）『文藝春秋』創刊に参加して文壇ゴシップ欄を担当、毒舌で話題を呼んだと`コトバンク、に。また百科擬（もど）きの`Wikipedia、（書き込み自由）には、1925年、マキノ省三郎（マキノ・プロダクション）に居候（たかっていた）。マキノ邸全焼の際に`恩を仇で返す言動、があったと書き込まれている。Wiki社による、出典要請のチェックが付けられていないので事実と思われる。

・・・といった背景から、菊池寛は直木三十五に賭けマージャンのカモにされていたと推測。以前、その辺りと直木賞を絡ませたツイノベ（#twonovel）を何題か書いた。

*2 お！置いてあるよ図書館（高松中央）に、漫画『大家さんと僕』。既に予約数第2位の184人、最大2週間借りられるから、それだと今予約して手もとに届くのは・・・ううっ！市内4館で所蔵しているのでそんなには待たせないか。

*3 この8月、大家さんが亡くなったと作者。1928年（昭和3年）生まれ、享年90歳。ちなみに私の義母は大家さんと2つ違いの昭和5年生まれ、相変わらず元気ハツラツ。漫画の方は最終回まで描かれているようだから、ほどなくして終わる。

:

My blog : if Frankie plays Naoki

<https://blogs.yahoo.co.jp/axros03/48429776.html>

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。

インプレッション

この28日間で、ツイートによって2,190,027件のインプレッションを獲得しました



インプレッション (ツイートを見た人)

自動的に落とされた一つのツイート (My bot 収蔵) に、ツイッターの平行世界みたいな向こう側から、唐突なモウレツさで反応があった。どこから拡散していったのか、『リツイート』『いいね』にさらに『リツイート』『いいね』がつながって。いちじゅうひゃくせんまん・・・確認しなければならない程の桁数、わずかひと晩で1,000,000のインプレッション (ツイートを見た人)、3日目で2,000,000を超えてなおもジワジワと。どこまでいくのか、し、しらん、(´o`);

トゥギャザー <https://togetter.com/li/1280430>

：
本たちが泣いているッ！

返却にきた図書館では『本たちが泣いているッ!』といった恒例の企画展が。特筆は校正マン (作家) を気取った落書き、ご丁寧に「私ならこう表現する」と、下手くそな文字で添削している。犯人像もプロファイリングし難い、愚行。

高松中央図書館

本が泣いている

マイブログ <https://blogs.yahoo.co.jp/axros03/48267653.html>

：

校正、校閲、添削でなく推敲擬 (もど) き。読みづらいが、アガサ・クリスティの『名探偵ポ

ワロ』（雲をつかむ死）の数行を、コナン・ドイルの『シャーロック・ホームズ』に書き換えるというお莫迦な落書きか、これは。ワトソンとかシャーロックなどの文字がかろうじて読める。

：

...それ、恥ずかしいなあ。

ぼそっとSAI。そうか地域住人の民度*の低さを晒されたようで。何と云っても`市立図書館、の蔵書だからなあ。

*住んでいる人の生活程度など。 * 図書館の落書き



七味唐辛子

競輪場近くに新しくできたセルフうどん店、昼ドキは大賑わいである。レースの合間、外出スタンプを専門紙に押ししてもらって昼食に。

:

キャップを外してひと振り。

瓶からドボツとイッキに吐きだされる七味とうがらし！

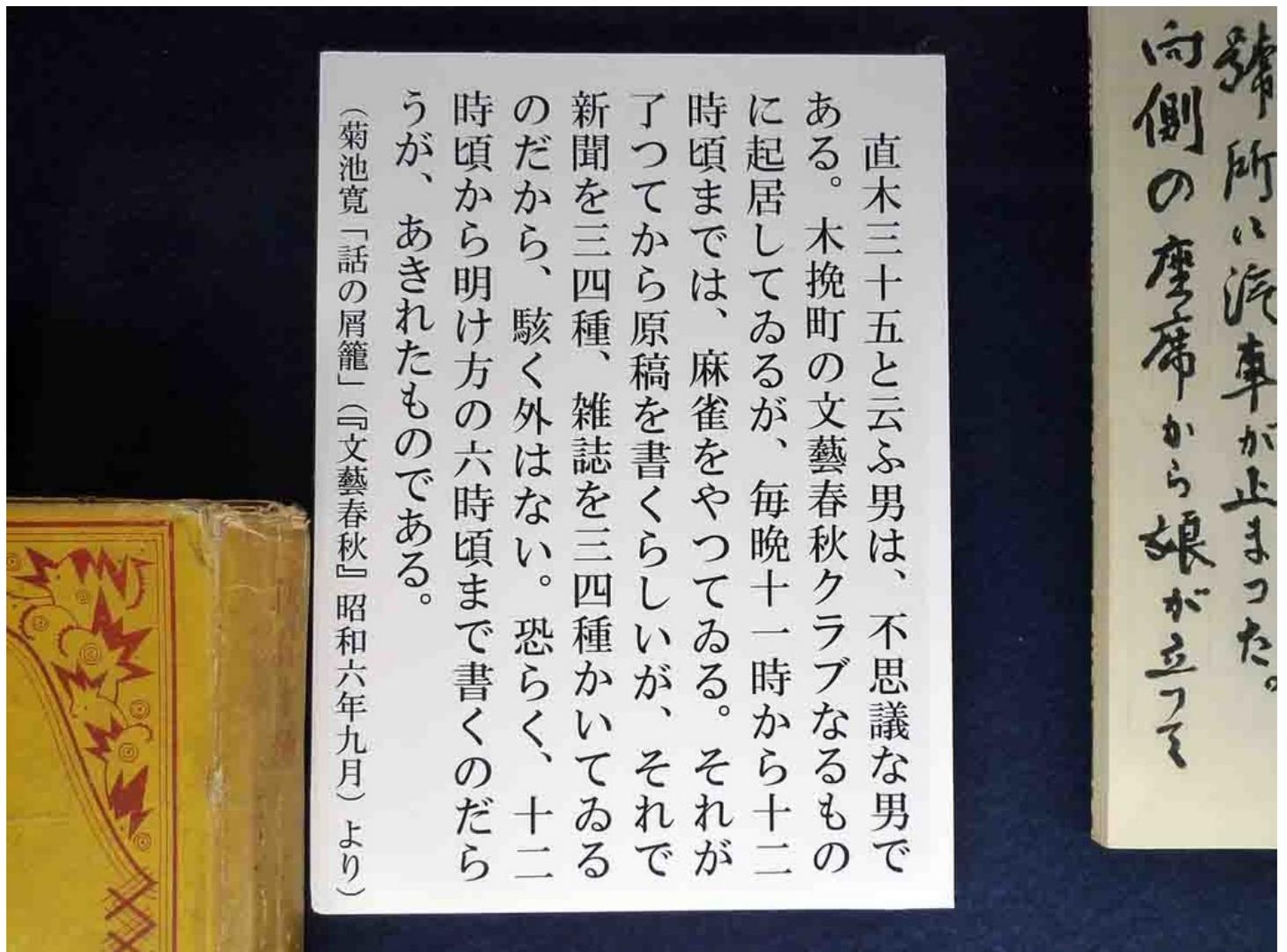
かけうどんの真ん中にまっ赤なスパイスがぶちまけられて、

大噴火で隆起したばかりの新島みたいに燃え立っている。

というか、これどうやって食べようか、お汁（つゆ）まで色づいて。

誰だよ、中ブタ外したヤツ！

再・推敲 #twonovel=Twitter Novel=（≒140字物語）=#ツイノベ
Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



菊池寛と直木三十五と麻雀と

麻雀 (Mahjong) . . . 。知的ゲームで賭博性があり、しかも卓上の闘いに人間性がさらけ出される。ちょっとばかし怖い遊びなのだ。戦後、本格的に流行り始めた麻雀、最初に飛びついたのは大学生やサラリーマンだったが、またたくまに社会を席卷して一大ムーブメントを。麻雀が強い人、弱い人というヒエラルキー (階級) が暗黙裏に形成された、少なくとも感じていた。大正から昭和の同時期を生きた菊池寛*1と直木三十五、その関係は社主 (文藝春秋) と物書き (小説家) というもので、確固とした上下があったが麻雀では、さてどうだっただろう? という推測 (考察) *2 をもって書いたのがこのツイノベ (≒140字小説: 小話) だ。

*1 日本麻雀連盟の初代総長にして重鎮 (鈍重という意味もあり) と称されているが、麻雀が上手い訳ではない (と理由もなく確信している)。総裁は名誉職、よろこんで拝命する、と本人も述懐している。ちょっとおっちょこちょいなルックス (私だけの主観) の菊池寛は、明治21年 (1888)、香川県高松市生まれ、小説家、文藝春秋社を興している。同時期を生きた人に芥川龍之介、直木三十五など。

*2 麻雀のつよいオトコに畏怖の念を抱く。菊池と直木は麻雀 (賭け) をしていた、負けていたのは菊池だった。

:
Chapter①
直木賞

ロンだそれ、ダブル役満、天井なしで三十五万点だけ! またかよ直木、おればっか狙い撃ちしてんじやないの? んなことねえよ菊池、てめえがヘタなだけだ、さあ精算しよか。ちょっと待て、

今度拵える文学賞の一つにお前さんの名前付けるからさ、それで麻雀の負けをキャラにしろよ、

直木賞だぜ、なあ。 #twnovel

:

Chapter②

三十五

菊池が捨てた白（はく）を鳴き返して、次順、發（りゅうは）を暗槓（あんかん）、嶺上開花（りんしゃんかいほう）！「自摸（つも）ったよ、菊池の責任払い、逆転だぜ！」「大三元、字一色（つーいーそう）。明槓（みんかん）も一ヶありで、青天井だ」

よせよ三十三、あついまは、三十五だっけな。 #twnovel

:

Chapter③

それでキャラに

『白發』と鳴いて直木、『中』を手牌出し。続いて菊池が切った『中』を鳴き返して大三元を自摸！菊池の責任払いでトップ逆転だ。

「さあ精算しようぜ、菊池」「待ち合わせがねえなら、こんどの文学賞に`オレの名前、を付けるや、それでキャラにしてやるぜ」「なに`直木賞、ってか？」 #twnovel

:

Chapter④

文学史の闇

オマエが負けたら、今度の文学賞にオレの名前を付けるんだぜ。いいぜ、よしやろうぜ、と始まった賭け麻雀、ジャンゴ口擬（もど）きの直木三十五に難なくひねられて大負けした菊池寛。

といった遣り取りから『直木賞』が決まったという、文学史の暗い闇。直木三十五、その作品にいま陽はあたらず。 #twnovel

:

Chapter⑤

まゆつば

直木三十五と麻雀に興じた菊池寛、青天井ルールで負け金が巨額に。払いに窮した菊池、新設する文学賞に直木の名前を冠することで相殺にした。

小説家として時代に乗り遅れていた直木、後世は代打ち雀士として裏世界で暗躍、最期は和了牌（ロン牌）を掴んだまま絶命した、という逸話は眉に唾して。 #twnovel

高松中央図書館：菊池寛常設展示場でデジ撮（写真撮影OK）

再・推敲 #twnovel=Twitter Novel=（≒140字物語）=#ツイノベ

例えばLOVEの読み方



例えばLOVEの読み方

7月4日（独立記念日）。

ホワイトハウスが北朝鮮テロリストたちに襲撃され、大統領など閣僚が囚われた。

テロリストによって全米に配備されている核ミサイルの自爆システムが作動、

自爆まで3分というときに、

電話指示で15桁におよぶ解除コードを打ち込んでいくタフガイ・・・。

N（ノーベル） I（インディア） L（リマ） 5（ファイブ） O（オスカー） H（ホテル）、

b a c k s l a s h（バックスラッシュ） 9（ナイン） V（ヴィクター） K（キロ）、

h a s h t a g（ハッシュタグ）・・・「なんだって!？」とキーボード上を指が泳ぐ!

「シフト3よっ!」 「そう言えよ!」

あと3秒というところで発射コードが解除された。

・・・映画を観終えてキーボードを探したらあったよ、

英数字3のキーに `#、(ハッシュタグ)が!

#(シャープ)とは別記号であるを知ったのはT w i t t e rで。

洋画『エンド・オブ・ホワイトハウス』(2013)

:

米軍ではアルファベットすべてに読み名を決めているが、

その伝でいくとL O V Eの読みは

「リマ、オスカー、ヴィクター、エコー」ということになる。

ちなみにL i m aはペルーの首都名のような。